

第1学年*組 国語科学習指導案			
平成 *年 *月 *日 (*) 第 *校時		**教室 指導者 木村 政博	
育成する国語の能力	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。(読むこと)		
単元名	論理の展開を「見える化」しよう		
単元目標	<p>○文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえることを通して、論理の展開の仕方を評価しようとする。(関心・意欲・態度)</p> <p>○文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえることを通して、論理の展開の仕方を評価することができる。(読む能力)</p> <p>○文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のイの(イ))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	・文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえることを通して、論理の展開の仕方を評価しようとしている。	・文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえることを通して、論理の展開の仕方を評価している。	・文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。
取り上げる言語活動	グループワーク，ワークシート		
題材(教材)	内田樹「人はなぜ仕事をするのか」		
単元(教材)について	<p>(1)生徒観：生徒は、文章の読解を通して書き手の考えに共感し、また自らの考えとの相違に気付くことができている。しかし、文章を俯瞰的に見て、その構成や組み立て方、論の展開の巧みさに気付くことについては課題があるように思われる。</p> <p>(2)教材観：この文章は、「人がなぜ仕事をするのか」という大きな問いを解決するために、細かい問いとそれに対する答えを積み重ねながら、論理的に内容を展開させる。そのため、文章の構成がつかみやすく、論理の展開を把握する活動に適した文章であると考えられる。</p> <p>(3)指導観：題名でもある「人はなぜ仕事をするのか」という大きな問いに向かって、いくつかの小さい問いが積み重ねられている点に注目させることで、論理展開の巧みさに気づかせる。その際、ワークシートを用いることで、論理構成の可視化を行う。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	1 第1・2段落を通読する。	2 第3・4・5段落を通読する。	○文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。(知識・理解)
	3 通読活動をふまえ、ワークシートに記入する。(本時)	4 完成したワークシートをもとに、文章全体の論理の展開の良い点・悪い点を評価する意見文を書く。	○文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえようとしている。(関心・意欲・態度) ○文章全体を俯瞰的にとらえることを通して、論理の展開の仕方を評価している。(読む能力)

本 時 案 (第3時)		
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
<p>本時の目標</p> <p>○ワークシートを用いることで文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○ワークシートを用いることで文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえることができる。 (読む能力)</p>		
<p>論理の展開を「見える化」しよう</p>		
<p>1 前時までの振り返りをする。</p> <p>2 ワークシートを用い、論理展開を可視化する。</p> <p>(1) 質問事項を抜き出しつつ、その質問に対する答えを書く。</p> <p>(2) キーワードである「運動」や「動き」などに関係する語をマークする。</p>	<p>○前時までを振り返らせ、文章のポイント、特に文章中にいくつかの質問事項があったことを意識させる。</p> <p>○「大きな問い」、「小さな問い」という言葉で説明することで、生徒がその両者の区別ができるようにさせる。</p> <p>○「運動」、「くるくる動き回る」などのキーワードが文章構成上のどこへ配置されているのかを可視化させ、展開の中でどこどこが対応しているのか意識させる。</p>	<p>○〈評価の方法〉</p> <p>○キーワード同士のつながりをとらえることを通して、文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえている。 (読む能力) (記述の点検)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>文章の構成を確かめられない生徒は、キーワードを振り返らせる。</p> </div>
<p>3 ペアになってお互いのワークシートを交換し、自分のワークシートとの共通点・相違点を確認する。</p>	<p>○ワークシート上のキーワードの対応について、気づかなかった点がないかどうかお互いに確認させる。新たに発見した点については、自らが発見した点と区別するため、違う色を用いてマークさせる。</p>	<p>○文章の構成を確かめ、文章全体を俯瞰的にとらえようとしている。 (関心・意欲・態度) (行動の観察)</p>
<p>4 次時の活動内容を確認する。</p>	<p>○次時は今回の活動を踏まえ、その論理展開を評価する活動であることを意識させる。</p>	

【序論】

大きな問い：「

」 ↓ (一般的な) 答え：「

」

小さな問い①：「なぜお金を稼ぎたいのだろうか」

↓ 答え①：「

」

- ・ ()
- ・ 貨幣が貨幣として成り立つ。
- ・ 貨幣の条件は) という既成事実。

【本論】

小さな問い②：「

↓ 答え②：「 = 「貨幣の本質って何？」

」」

」

- ・ 貨幣や商品とは 「」。
- ・ 市場とは 「」。

小さな問い③：「どうしてそうなるのか」

↓ 答え③：「私たちは

」

」だから。

- ・ ネアンデルタール人とクロマニヨン人とを隔てる決定的な違いは、 () という点。
- ・ 貨幣は) 道具。

【結論】

小さな問い④：「仕事とは何か？」

↓ 答え④：「

」

- ・ 「仕事をする」というのは、 () (ただそれだけのこと。
- ・ 仕事の本質は) にある。

大きな問い：「



【序論】

大きな問い①：「人はなぜ仕事をするのか」 ↓ (一般的な) 答え①：「お金を稼ぐため」

小さな問い①：「なぜお金を稼ぐたいのだろうか」

↓ 答え①：「そのお金で価値のあるいろいろなものが買えるから。」

- ・ (次から次へと確実に「パス」されていくとゆう「期待」) (の上に初めて貨幣が貨幣として成り立つ。)
- ・ 貨幣の条件は(「それがすでに貨幣として流通している」)という既成事実。

【本論】

小さな問い②：「いったいなぜ貨幣などという不思議なものが存在するのだろうか」

↓ 答え②：「貨幣の本質って何？」

「運動を継続させる」「ハト。」

- ・ 貨幣や商品とは「くるくる動き回るもの」。
- ・ 市場とは「ものがくるくる動き回る場所」。

小さな問い③：「どうしてそうなるのか」

↓ 答え③：「私たちは」

「何か「くるくる動き回る」のを見るのが大好き」だから。

- ・ ネアンデルタール人とクロマニヨン人とを隔てる決定的な違いは、(クロマニヨン人は「何かと何かを交換する」ことが大好きだった)という点。
- ・ 貨幣は(交換を加速するために最も効率のよい)道具。

【結論】

小さな問い④：「仕事とは何か？」

↓ 答え④：「モノをくるくる動かすこと」

- ・ 「仕事をする」というのは、(「他者を目ざして、パスを出す」) (ただそれだけのこと。)
- ・ 仕事の本質は(他者を目ざす運動性のうち) (にある)。

大きな答え①：仕事とは「他者を目ざして、パスを出す」ことであり、「モノをくるくる動かす」ことであり、その本質は他者を目ざす運動性のうちにある。仕事をするのは、理由は分からないが、私たちはその「何かがるくるくる動き回る」様子を見るのが好きであるから。